

水層もめっきり減ってきた。もう源流も近い。兩岸にいくつもの炭焼き釜あとをみる。燃料革命は木炭を追放し、炭焼きはごく一部で行なわれるだけとなってしまったが、感時の名残りはあちこちで見られる。11時05分、ほとんどやぶこぎなして尾根に出る。尾根には踏跡があった。 (記・

出合(8:15)——二俣(9:30)——尾根(11:05)

赤沢中俣(下降)

1982年5月23日

L

尾根上で20分程小休止してから赤沢の下降にかかる。10分程下って本流へ。この沢もナメが多いようだ。やがて4mの滝。右岸に足形があって、この沢にもいろんな往来があったことをしのばせる。8mの滝は左岸を擦く。ナメと滝で今のところ奮闘気は上々である。

期待しながら下っていたら、沢がいっぺんに平凡となってしまう。もうあまり期待ももてそうにないので、兩岸にかすかに残る踏跡を適当に使いながら下る。この沢沿いにも炭焼き釜あとが多い。桑畑あともあった。

13時10分、兩岸がせまり急に奮闘気がよくなくなった。しかし滝はかからず、すぐまた平凡になってしまった。13時30分、取水ダムに着く。ここで沢からあがり、水路ぞいの踏跡をたどってお振部落へ出る。 (記・

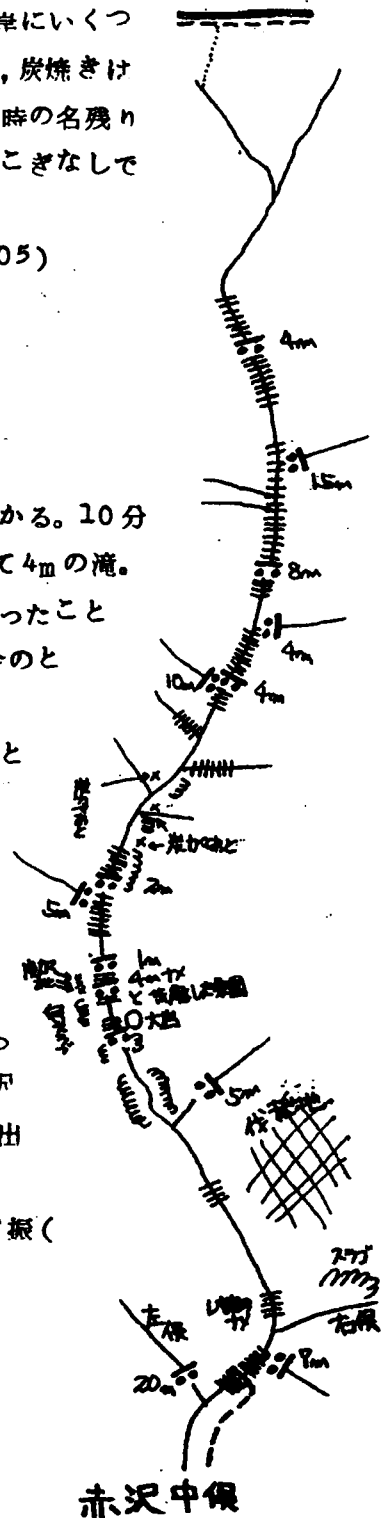
下降開始(11:25)——取水口(13:30)——お振(13:50)

布入川

1982年5月23日

L

二俣になった所の橋より入溪。兩岸に石垣が積んで



ある。左に曲がった所にF1・5mが現われる。節理がよく発達し、材木岩のようである。なんなくパス。すぐにF2 4mがあり、これを越えると小さなナメとなっている。右より滝が3つかった小沢が合流した所に丸太による橋がかかっており、その先は小さなゴルジュである。その奥には砂防ダムがあって、右岸を捲き、トラバースぎみに進んでから沢に戻る。

小休止後廻行再開。小滝やナメが所々に出て、沢がU字状となった所を通り、F3 5m。なんなくパス。すぐに二俣となる。水量は左俣の方が多。予定通り右俣へ入る。

左岸から10mの滝となって小沢が合流するとF4 5m 2段の滝がある。これが地図にある滝だろう。小滝を越えてゆくと橋がかかっていた。このあたりあちこちに伐採地がある。左右から小沢がいくつも合流してくる。そしてまた二俣。

二俣のすぐ先でF5, F6, F7と小さいが連続してかかる。ここの右岸にも伐採地が広がっている。ゴルジュが現われ、沢は逆S字に曲がる。その先にF8 5mがあらわれるが軽くパス。

伐採地が終わる頃にナメが現われ、沢の水も少なくなってきた。やがて平坦な場所に出て、沢が二分した。水はもうチヨロチヨロ。右へ進むとすぐ水もなくなり、15分程でコルへ出た。ここで昼食をとり、茂庭沢に向けて下降に移る。(記)

出合(8:20)——二俣(9:30)——
コル(12:30)

高山沢

1982年8月29日

L

天気快晴。出合のえん提上流は、堆石でうずまっております。水

